

素敵な教職員の皆さんに、ONとOFFのスマートスタイルについてお聞きしていきます。



日本の女性は日本女性のままでいてほしい!

ON Style

大学院理工学研究所(工学)教授 唐 政

略歴

中国生まれ。1988年7月中国清華大学工学研究科電子工学専攻を修了し工学博士学位を取得。1989年4月に来日、宮崎大学助手、助教授を経て、2000年3月から富山大学工学部教授に就任。現在大学院理工学研究所(工学)にて教育、研究に従事。

2013年の世界経済フォーラムの世界男女格差報告によれば、世界各国の男女間格差ランキングでは日本は世界136カ国中105位となり、先進国における女性の働きやすさランキングにおいても、日本の女性の労働環境は26カ国中なんと25位で、ワースト2位でした。日本の女性が悲惨な環境を強いられているようで、かわいそうに思われる見方もあるかもしれませんが、日本で20年以上生活しているわたしがみると、必ずしもそうでもなく、逆に日本は女性にとっては天国のような国であると感じています。

その一つ目の理由は、日本女性が世界の女性の中で、その美しさと優しさでよく知られているということです。中国でも古くから、アメリカ人の給料をもらい、イギリス式の家に住み、中国人のコックを雇い、日本人を妻として娶ることが理想だという言葉も広く知られています。日本女性の美しさと優しさは内面と外面と上手く調和されているもので、周囲の人々に春風のような心地よさを与えてくれる美しすぎるものです。その理由から、世界中で日本人女性に対する評価は非常に高く、日本にいる73%の外国人男性は日本人女性と結婚したいと願うとの調査結果まで出ているようです。日本の女性は世界を魅了しています。このように、世界に一番好かれるということは女性として何より、最高の幸せではないでしょうか。

二つ目の理由は、日本の専業主婦たちも昔と違って、家庭の主導権を握り、忙しいながらも幸せな日々を送っているということです。確かに、海外でよく放映されている日本のドラマや映画などで描かれる日本は亭主関白を通すことができ、夫は妻に、命令形で話し、妻は夫に決して反抗しないように見えます

が、実際に日本に住んでみると、全く違っていました。ほとんどの現代日本の家庭では、妻が家計を握っています。夫は妻からもらったお小遣いで、ランチを食べたバコを買い交通費を使うなど、やり繰りしています。もちろん日本の妻たちは、毎朝家族で最初に起き、朝は夫や子どものために朝食を準備し、夫のための弁当を作ります。そして、夫と子どもを見送った後は、専業主婦の忙しい日を送るとともに、習い事をしたり、高級レストランで食事をしたり、人生を楽しんでいます。本当に日本の女性は幸せです!日本の平均寿命は男性より女性の方が10歳近く長いのは、幸せな日々を送っているからではないかと思えます。実は、中国人のわたしもいつのまにか同じ中国人妻から毎月5万円の小遣いをもらい、日本人の男性と同じようになりました。もちろん、男性としてのわたしは、妻が本当にそれで幸せであれば、それでいいのではないかと納得しています。

三番目の理由として、いま日本の女性の大学進学・社会進出がかなり進んでいることが挙げられます。昔の日本は確かに男性を中心とした社会であり、結婚した女性が家事を担当するのはごく当たり前のことでしたが、今の日本の全就業者に占める女性の比率はすでに48%以上で欧米諸国の水準に近づきつつあります。社会的にはそれにあたり抵抗もなく、むしろ歓迎ムードとなっています。また制度的にも育児制度や時短制度の導入や、多くの企業には社内保育園まで創設する企業までできており、全体としては男女共同参画の方向に向かっていきます。昔の「男性が主導権を握り、女性はサポートする」、そういうような社会はもう終わっているのです。今の日本の女性にはほかの国の女性より多くの選択肢が存在し、例えば志のある女

リレーでつなぐ
ワーク・
ライフ・
バランス
vol.6

性は結婚しなくても問題ありませんし、結婚していても、いなくても、仕事をして、専業主婦をしても全然構わないのです。しかも会社の社長になることもでき、自分の人生の価値を実現することも可能です。この点においても、日本の女性は世界中の女性に羨まれるのではないのでしょうか。

わたしはこれまで20年以上日本に住んでいて、日本と日本の女性が好きになっていきます。日本の女性の優しさと満足度は、周囲の人々に春風のような心地よさを与えてくれます。日本の女性たちはキャリアウーマンを選んでも、専業主婦を選んでも、どのような人生を選択しても、彼女たちの顔にはいつも心からの平和で謙虚な笑顔が浮かんでいます。彼女たちが仕事をしているときの真面目な表情、まるで足りないものなど無いかのように仕事に没頭しているのを見ると、彼女たちの世界はいつも希望と光にあふれ、生活を生き生きと享受しているという気分がわたしもなってきます。逆に、私の母国の中国は男女共働きで、女性の社会進出が進んでいるので、当然「女性であること」に対する満足度は中国では高いだろうと想像してしまいましたが、ある調査で「次に生まれ変わるなら、男性と女性どちらがいいか?」と聞いたところ、「また女性に生まれ変わりたい」と回答した日本人女性は48%、中国人女性は39%で、意外にも日本女性が中国女性より9%も高い結果となりました。日本女性たちはごく自然に、「女性であって良かった」と思っているように見え、自分たちの現在の社会環境、生活環境に満足しているのではないのでしょうか。



「男女共同参画」のバスケットチームのオーナー。選手、審判、監督、時には解説者として頑張っています!



富山大学男女共同参画推進室

News Letter

Office for Gender Equality, University of Toyama

2013.12
第6号

TOPICS

- 男女共同参画推進事業所に認証
- 女性の活躍推進を宣言
- 活動報告 ●お知らせ
- リレーでつなぐワーク・ライフ・バランス
- 数字で見る富山大学のいろいろ

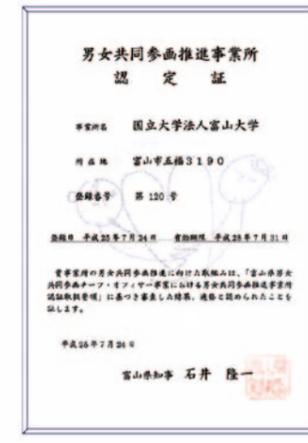
チューリップの花言葉は、愛・思いやりです

男女共同参画推進事業所に認証されました

富山県は、男女共同参画チーフ・オフィサーを核とした取り組みを行っている事業所を「男女共同参画推進事業所」として認証し、男女共同参画を積極的に推進しています。



富山大学は、5月に永山学長補佐(男女共同参画担当)が就任したことから今年初めて男女共同参画チーフ・オフィサー設置の申込みを行いました。また同時に、男女共同参画推進事業所認証の申請を行いました。男女共同参画推進事業所認証取扱要領に基づき、女性管理職登用など本学のこれまでの取り組みが評価され、男女共同参画推進事業所の認定証ならびに男女共同参画チーフ・オフィサー委嘱状が7月24日付で交付されました。



富山大学は「厚生労働省のポータルサイト」に女性の活躍推進を宣言しました

厚生労働省は、女性の活躍推進に関心を持つ多くの方に向けた情報ポータルサイトを開設しています。富山大学は、10月に女性の活躍宣言コーナーに情報を発信し、ポジティブ・アクションを推進することを表明しました。



宣言します!

- 職場風土の改善 ●女性の採用拡大
- 女性の職域拡大 ●女性の継続就業支援
- 女性管理職の増加

富山大学は、先端的・独創的研究の促進や有為な人材の育成のために、女性就業率の高い富山県の特性を生かし、男女が協力して大学の運営にあたる体制作りを目指します。なにより構成員全員が能力を発揮できる教育・研究・職場環境の創出、仕事と家庭生活の両立を可能にするための支援に力を注ぎ、取り組んでいきます。

国立大学法人富山大学長 遠藤俊郎

その実現のため具体的に

- 男女共同参画の視点に立った教育・研究環境および就業体制の確立
- 仕事と家庭生活との調和(ワーク・ライフ・バランス)を図るための支援
- 大学運営に関する政策の立案と決定への女性参画の推進
- 学生・教職員への男女共同参画についての啓発活動の推進
- 男女共同参画を推進する地域や国際社会との協働および連携の促進

に取り組みます!

女性の雇用率(%)		
富山大学	52.1	常勤 44.0 教員 17.0 非常勤 67.4 * (H25.5)
全国平均	47.1	* (H22)
富山県	49.9	* (H22)

女性の平均勤続年数(年)	
富山大学	11.2 * (H25.5)
全国平均	8.9 * (H24)
富山県	11.0 * (H22)

数字で見る 富山大学のいろいろ

【女性の雇用率ならびに勤続年数の比較(国・富山県・本学)】

富山大学の女性の雇用率、平均勤続年数は、全国平均を上回っています。女性が比較的離職しない富山県の特徴が表れています。しかし、本学的女性教職員のうち常勤職は半数に満たず、さらにそのうち女性教員比率は17%に留まっています。そこで本学での女性の採用がさらに進むことが期待されます。

編集後記

いよいよ2013年も余すところわずかになりました。第6号は、楽しくお読みいただけましたか?今回は、学内の取り組みだけでなく、本学が学外に向かって男女共同参画を推進していることをお伝えできたかと思えます。このニュースレターが、読者の皆様に役立つ情報をお伝えし、ワーク・ライフ・バランスを考えるきっかけになればこんなに嬉しいことはありません。

富山大学男女共同参画推進室News Letter 編集メンバー
唐政 坪見博之 永山くに子 呉人恵 東田千尋 南村有輝子 須藤梨沙



発行
富山大学男女共同参画推進室

〒930-8555富山市五福3190
E-mail smart@ctg.u-toyama.ac.jp
TEL076-445-6146 FAX076-445-6063
URL http://www3.u-toyama.ac.jp/kyodoss/



ポジティブアクションポータルサイト 富山大学の宣言コーナー
URL http://www.positiveaction.jp/declaration/add/search_detail/?id=441

全学男女共同参画ワークショップを開催しました



ワーク・ライフ・バランスに関する全学ワークショップを開学記念日の10月1日に開催しました。全キャンパス10部局の職員60名が、教員・職員の垣根を越えて一同に会するという初めての試みの中、参加者の皆さんのワーク・ライフ・バランスについて「現状の課題」と「夢」を共有してもらいました。参加された方々は最初は緊張の面持ちでしたが、グループ内での意見交換が始まると、異なる部局に共通した課題や、個人それぞれの夢や目標の話で大いに盛り上がりました。

仕事の課題の例としては「会議等で夕方以降の仕事に拘束されている」「上司の退勤時間が遅いが、その前には部下や学生も帰宅できない雰囲気がある」など、周りの雰囲気や制度上の問題によって個人の資質が十分に発揮できていないという問題点が多く挙がりました。それらの問題点は「本や論文をもっと執筆したい」「家族や子どもと接する時間をもっと取りたい」といった、仕事や私生活での「夢」の障壁となっていることも浮かび上がってきました。仕事上の問題を除いてゆくことが、私生活の質的向上につながるのではないかと考えられます。グループごとに発表をおこなった後は、大学内カフェのAZAMIに会場を移し、遠藤学長にも参加いただき、活発な情報交換が行われました。

参加された方からは「多くの管理職の方にもワーク・ライフ・バランスについて考える機会を持ってほしい」「同じ年代の教職員ともっと交流をしたい」という感想が寄せられ、男女共同参画推進室では今後も取り組みを続けたいと考えています。今回のワークショップで挙げた「仕事と私生活の課題と夢」をまとめた冊子を今年度中に発行する予定にしていますので、ぜひ手に取って頂き、今後このようなワークショップに多くの方が参加して頂けることを願っております。

開催日：平成25年10月1日(火)
時間：午前9時30分～12時30分
会場：五福キャンパス 黒田講堂会議室
オープンカフェ AZAMI

平成25年度 研究サポーター制度、後期利用者が決まりました

研究サポーター制度は、女性研究者の教育・研究活動の環境整備の一環として、平成21年度から実施しました。女性研究者が妊娠・出産・育児、または家族の介護を行っている際に支援を行うことにより、教育・研究活動が持続できることを目的としてい

ます。平成23年度からは、子の養育、または家族を介護している男性研究者も支援の対象になりました。平成25年度は2回募集を行い、前期には11名(女性7名・男性4名)を、後期には14名(女性7名・男性7名)を支援しています。

◆男女共同参画推進シンポジウム 「上司力!!!—ワークとライフを駆けぬけて—」を開催しました



開催日：平成25年11月22日(金)
時間：午後13時30分～16時45分
会場：五福キャンパス 黒田講堂 ホール
基調講演：「自分らしく働くことの大切さについて～企業の研究開発現場から～」
講師：唐木 幸子 氏
(オリンパス株式会社 研究開発センター 医療技術開発本部 診断技術開発部長)
総合討論：「上司力?—今、組織に求められる上司力とは—」

企業の第一線で管理職として活躍されている、唐木幸子氏をお招きし、基調講演とパネルディスカッションからなるシンポジウムを開催しました。研究職、留学、出産、管理職と駆けぬけてこられたご経験や、仕事をする上での「何がなんでも働く」という意欲、「自分の身を助ける力を知る」、「すべての期待は自分に向ける」ということの大切さなど心に染み入るお話を拝聴し、会場は感動に包まれました。総合討論では、本学の5名の先生方をまじえ、上司と部下に望まれることなどについて、会場参加型での意見交換がなされました。(参加者161名)



夏季学童保育を開催しました

開催日：7月25日～8月2日(7日間)
会場：五福キャンパス 黒田講堂会議室
：杉谷キャンパス 医学部看護学科棟2階会議室

5回目となる今年の学童保育は、五福キャンパス・杉谷キャンパスで同日開催し、7日間ずつ、のべ14日間実施しました。参加者は47家族62児童のべ264名でした。

大学ならではの学童保育として実施しているサマーわくわく教室は、学内外の先生方をお呼びして数も内容も盛り沢山でした。『光の強さで自作ロボットをコントロール』は7月31日の北日本新聞に取り上げられました。



8つのサマーわくわく教室を実施しました

- 早川 隆志 先生 『富山・イタズラ村あそび』(7月25日)
NPO法人「富山・イタズラ村・子ども遊ばせ隊」
理事長
 - 水島 俊雄 先生 『磁石で遊ぶ』(7月26日)
 - 岩坪 美兼 先生 『植物と虫』(7月29日)
 - 前川 清人 先生 『シロアリのへいたいはスゴイ』(7月29日)※
 - 小林かおり 先生 『光で遊ぼう』(7月30日)
 - 戸田 英樹 先生 『光の強さで自作ロボットをコントロール』
(7月30日)※
 - 片岡 弘 先生/成行 康裕 先生/人間発達科学部 1年生(6名)
『風であそぼう!!』(7月31日)
 - 伏見 裕利 先生 『葉草博士になろう!!』(8月2日)※
- ※とやま科学技術週間関連イベントとして、一般に公開したプログラムです。

サマーわくわく教室にご協力頂きました
皆様ありがとうございました。

「煌めく女性リーダー塾」第1期会長を務めています

県内企業等における女性の活躍を推進し、リーダーを目指す女性の相互交流と自己研鑽を図るため、今年から富山県主催の煌めく女性リーダー塾が新設され、県内22の事業所から22名の塾生が参加しています。富山大学からは、広報グループ 室 智子主査が第1期塾生として参加し、会長として活躍しています。



◆文部科学省主催 「女性研究者研究活動支援事業合同シンポジウム2013 —世界で活躍できる理系女性研究者の育成—」に参加しました

開催日：11月11日(月)
会場：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

◆独立行政法人 国立女性教育会館主催 「平成25年度大学等における男女共同参画推進セミナー」 に参加しました

開催日：11月28日(木)～11月29日(金)
会場：国立女性教育会館

お知らせ

大学入試センター試験特別保育を実施します

昨年度に好評だった大学入試センター試験特別保育を、今年度も実施します。大学周辺の保育所を会場に、教職員のお子様をお預かりします。また、ベビーシッター・休日保育利用料補助制度を使って最寄りの保育施設等を利用することもできます。詳しくは、男女共同参画推進室にお問い合わせ下さい。

開催日：平成26年1月18日(土)
19日(日)

